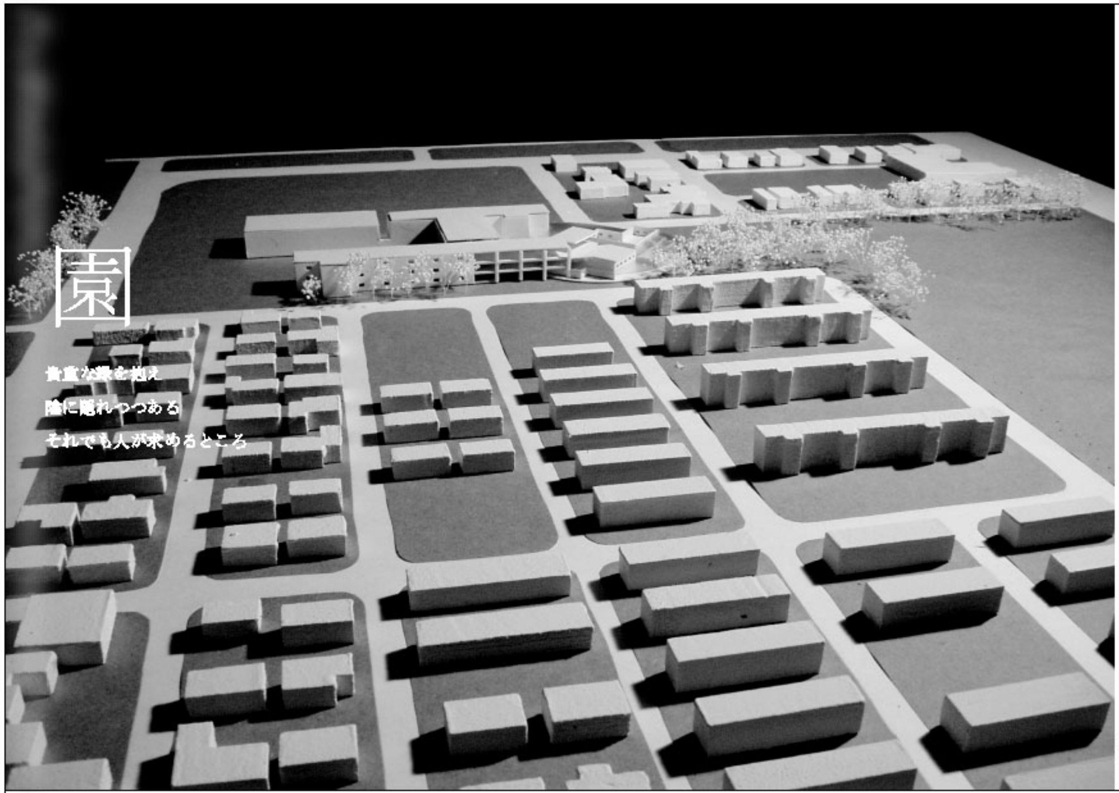


園

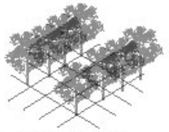
貴重な緑を抱え
陰に隠れつつある
それでも人が求めるところ

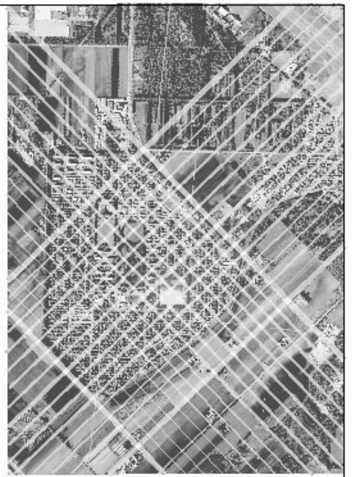
background: 都市のオープンスペースのあり方の模索

context:

大空団地：
帯広駅からおよそ8kmに近郊農村人口からの人口流入による人口増加、および木造老朽住宅の建替えに対応して、1967年から74年に新住宅市街地開発によって整備された大空団地がある。
団地は、計画人口14700人、敷地面積149haで、北海道内でも比較的大規模な住宅地開発であった。地区中央の幹線道路の交差する箇所にタウンセンターを配置。飛行場の騒音を軽減するように西部から北部にかけて帯状の遮断緑地を配置したのが特徴となっている。
境界に空堀を作り、南側の境界はウツベツ川の堤防があり、他は幅20～30mの樹林帯・グリーンベルトで囲まれ、出入り口は二箇所で他からの出入りは一切できないようになっている。

農地と防風林：
北海道の他の地域と同様に500間（540m）の拓殖区画グリッド状の農地区分とそれに隣接するように農家が存在する散居集落を基本としている。
基幹防風林：
開拓計画による開墾の際に樹林地を伐採してきた過程で、農家の燃料利用や防風効果を期待されてカシワ林を残したもの。
耕地防風林：大正から昭和にかけ発生した冷害などを受け基幹防風林だけでは防風効果が及ばない内側部分に、1列～5列にカラマツを植栽する形で造林され、全体としてグリッド状に配置された。





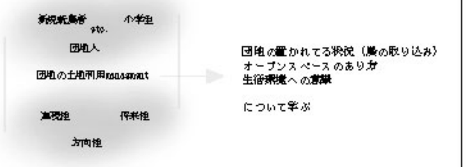
program:

団地再生
緑を資源として拠点を作ることでオープンスペースと建築郡の再計画への足がかりを作る
大空小学校のリノベーション 「+生涯学習センター」

団地再生の方法／土地利用のmanagmentを学ぶ

concept:

園～周りを垣で囲んだ畑や庭のこと
「口（かこい）と袁（ゆったりとからだを囲む衣）」の会意兼形声文字
緑の城壁で囲まれた大空団地は、言わば「園」である。
そこに団地の再生を促す「園」の建築を作り出すことで、
近くにある帯広の森に溶け込ますように、新しい環境への道筋を示す。

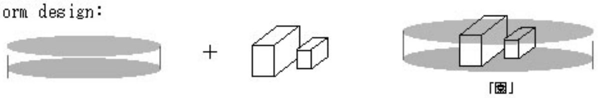


新規転入者 etc.
小学生
団地人
団地の土地利用managment
実現性
将来性
方向性

団地の置かれてる状況（緑の取り込み）
オープンスペースのあり方
生活環境への意識

について学ぶ

form design:



全体が一体となる緩やかな境界を示す円アクティビティの染み出しが可能になる空間小学校とセンターの中間領域に位置する

目的を持ったアクティビティを可能にする空間

「園」

全てオープンではない、囲まれた空間を作りさらにゆったりと囲む領域をもつ「園」の建築

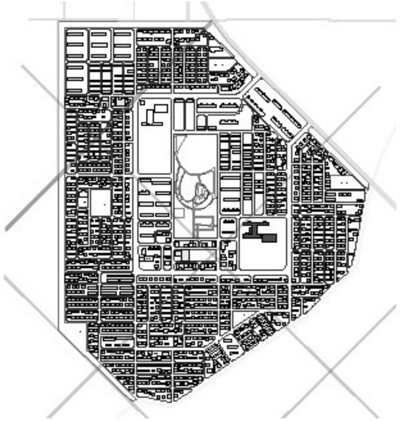
- 戸建住宅
- 集合住宅
- 幼稚園
- 商業施設
- 学校
- 公共施設
- グリーンベルト
- 公園

園

MANAGMENT

『箱入り娘ゲーム方式』：
ある地域の土地のマネジメントの方法をパズルにたとえたものの一つで、空き家になった土地を集めてその地域にとってプラスになるオープンスペース、もしくは施設を作っていき、地域の土地を意味のある単位にまとめていく。
これを実行するためには、地域の人々の認識が必要である。その認識を植えつけ団地の再生を地域全体で考えていくための施設がこの建築である。

2005 現況



住宅の老朽化

▼

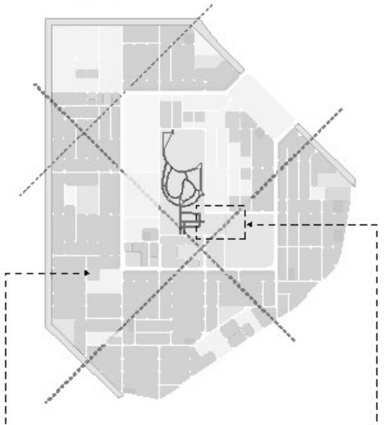
オープンスペース利用の希薄性

▼

空き地の分散状態

生涯学習センター建設

2015



戸建住宅の空き地を公共のオープンスペースへ

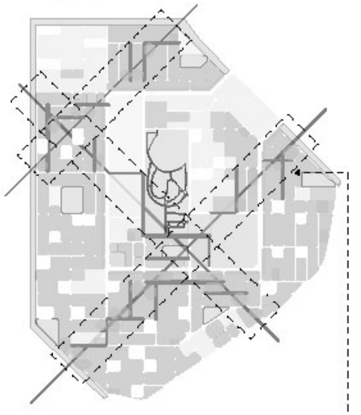
空き地の緑地化
農地グリッドを緑化の基軸とする

グリッドを基軸にセンター周辺をデザインしていく
（芝・段差・背の低いき・砂利・アスファルト・土）

団地全体のオープンスペース配置計画作成
ガーデニング、家庭菜園の動き

更なる空き家、空き地の増加

2025



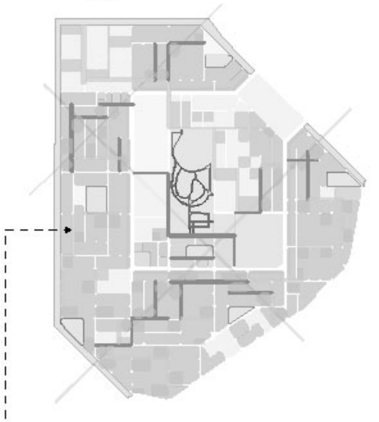
基軸に基づく街路樹、緑のスペースの配置

▼

グループホーム計画・道路計画

方向性の明確化

2035



戸建住宅の空き地を公共のオープンスペースへ

▼

オープンスペースのネットワーク化

歩行空間の創出・個人住宅の庭園とのつながり
集合住宅とオープンスペースのつながり（畑・デッキetc）